介護保険下の住宅改修における理学療法士の現状と役割に関する調査研究

学籍番号 03M2421　氏名 柳井　庄二

１．研究目的

今までわが国の高齢化は地方の問題であった。しかし、団塊の世代が定年を迎えようとしている現在では、団塊の世代のベッドタウンとして発展してきた都市郊外にいて、高齢化によって生じる問題が徐々に大きくなりつつある。その問題の一つに住環境に関する問題があげられる。住環境が高齢者や障害者に与える影響については多数報告されている。

本研究は、今後急速に高齢化を迎える地域と、既に高齢となっている地域において、介護保険下での住宅改修サービスがどのように進められているかについて把握し、住宅改修サービスにおける理学療法士（以下、PT）の役割等について検討することを目的とする。

２．対象と方法

埼玉県春日部市および、岩手県大船渡市の介護支援専門員（ケアマネジャー、以下、ケアマネ）の研修会場で、集合調査法によるアンケート調査を行った。

３．結果

春日部市のケアマネ37名、大船渡市のケアマネ60名から回答を得た。

1)基礎情報

春日部市のケアマネ26名（62.2%）、大船渡市のケアマネ46名（76.7%）が住宅改修の経験者であった。ケアマネの資格取得後の平均年数は春日部市3.2年、大船渡市5.1年であった。住宅改修経験数は両市の全回答者で10件以下であった。現職に対する主観的な忙しさに関しては、春日部市で「やや忙しい」43.2%、「きわめて忙しい」32.4%、「適度」10.8%、「やや余裕がある」5.4%であった。大船渡市では「やや忙しい」43.3%、「きわめて忙しい」38.3%、「適度」11.7%であった。

2)住宅改修に関する情報

両市間の比較はχ２検定（SPSS11.5J for Windows, SPSS Inc.）で行った。

①住宅改修サービス提供時の連携者（複数回答）

春日部市は「建築関係者」88.5%、「福祉用具販売業者」69.2%、「PT」50%などであった。大船渡市は「建築関係者」90.7%、「福祉用具販売業者」46.5%、「PT」30.2%などであった。春日部市は大船渡市に比べ、住宅改修サービス提供時に連携している専門家として、有意にPTが多かった（$P<0.01$）。

②PTの認知レベル

春日部市では「PTの職業･仕事内容を認知」84.6%、「PTという職業のみ認知」11.5%であった。大船渡市は「PTの職業･仕事内容を認知」79.5%、「PTという職業のみ認知」18.2%、「PTの仕事内容のみ認知」2.3%であった。両市間で有意差はなかった。

③住宅改修におけるPTの必要性

春日部市は「必要である」91.3%であった。大船渡市では「必要である」92.3%であった。両市間で有意差はなかった。

④住宅改修後の効果判定の有無

春日部市は「行う」96.2%、「行わない」3.8%であった。大船渡市では「行う」79.6%、「行わない」20.5%であった。両市間で有意差はなかった。

⑤主な自由記載内容

- （住宅改修サービスでは）時間と労力に見合った報酬が得られない。
- 行政側で在宅介護を進めるのであれば、住宅改修は重要な部分になるが、現在の状況では重要視されているとは思えない。
- 理由書作成は、ケアマネでなくてもいい。
- 理由書を国や市町村で統一して欲しい。
- 事前申請を簡素化して欲しい。

などであった。

４．考察とまとめ

ケアマネのPTに対する認知度は高く、また住宅改修サービスにおいてPTを必要としている度合いも高いことが示された。しかし、住宅改修を進めていく中でケアマネとPTの連携は十分ではない。連携が少ない理由としては、PTに対する知識不足といった、ケアマネ自身の個人因子ではなく、多忙、報酬、行政などケアマネを取り巻く労働環境因子にあるのではないかと考えられた。春日部市においては、多忙なケアマネの手を煩わせないような連携システムが必要と考える。